



2022年4月号

# ウトナイ湖通信

No.215

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

## 3月6日開催・楽しい春の自然観察ツアー

自然界の一足早い春を楽しんでいただこうと、調査活動などでウトナイ湖の自然をよく知るボランティアチームの皆さんが主体となり、標記の観察会を開催しました。当日は、12名の一般参加者の皆さんを、2グループに分けてご案内。自然観察路を周りながら、結氷したウトナイ湖上に佇むオジロワシ、オオハクチョウ、ヒシクイ（何らかの理由で越冬していた個体）などを観察し、まだ残っている雪の上にエゾユキウサギやキジの足跡を発見しました。冬芽が膨らんだエゾニワトコやバッコヤナギの銀白色の花穂なども見られ、春の訪れを感じる観察会となりました。

おはようございます！



受付と双眼鏡や図鑑の貸し出し

湖上の  
オジロワシを  
観察



ズミの枝についた  
オビカレハの卵を探  
す体験

## 観察会の裏側！

実は、この観察会の1週間前2月27日にボランティアチームの皆さんが集まり下見や準備を行なっていたのです。どのように参加者にガイドするか等を話し合い、タイムスケジュールや担当者を決めて、入念に準備を行いました。

2グループに分けたほうが、案内の  
声が届きますかね？



分けましょう！

水鳥にスコーフをセット！  
ヨシガモを発見。



## 春の訪れ、夏鳥の到来！

北海道に「夏鳥」が到着する季節となりました。冬の間、本州や東南アジアで越冬していた野鳥たちが、続々とウトナイ湖にやってきます。夏鳥の姿が楽しめると同時に。オスがメスへのアピールや他のオスに縄張りを主張する際に出す声、「さえずり」も楽しめる季節です。

昨年、野鳥の会のレンジャーが確認した夏鳥の初認日は、2ページの自然情報に掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

美しい声でさえずる  
夏鳥のクロツグミ



【自然観察路情報】 観察された生きもの

2022年3月20日（日）10：00～11：40

《野鳥》アカゲラ、ハシブトガラス、トビ、オジロワシ、オオワシ、アオサギ

《植物》【冬芽】エゾニワトコ、イヌコリヤナギ

【葉】フッキソウ 【つぼみ】フッキソウ

【雄花】アキタブキ、ハンノキ 【花穂】バッコヤナギ、エゾノカワヤナギ

《その他》雪上の足跡（キタキツネ、エゾタヌキ、エゾシカ、ツグミ）

コフキサルノコシカケ（きのこ）



【水鳥カウント調査結果】 2022年3月17日（木）15：00～16：00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 \*（）内は個体数、（+）は以上、（±）は「前後」の意味

マガン（162羽）、オオハクチョウ（30羽）、ヨシガモ（20羽+）、ヒドリガモ（27羽±）

マガモ（101羽±）、オナガガモ（720羽±）、コガモ（24羽）、ミコアイサ（25羽±）

カワアイサ（21羽）、カワウ（2羽）、アオサギ（1羽）、ダイサギ（2羽）、トビ（1羽）、

オジロワシ（4羽）、オオワシ（3羽）



4月の自然予報

続々と夏鳥の到着が確認されるかもしれません

以下は昨年の春（2021年）に、レンジャーが夏鳥の到着を最初に確認した日です。

今年はいつごろ確認されるでしょうか？

2021 4/1	2021 4/8	2021 4/11	2021 4/14	2021 4/18	2021 4/22	2021 4/23
メジロ	ウグイス	コチドリ	アオジ	クロツグミ	オオジシギ	ノビタキ

少しずつ、植物の開花が始まるでしょう

地面に見られる緑色の葉は「フッキソウ」と「ナニワズ」です。

緑の葉で、花のつぼみをつけて、雪の下で越冬していました。例年、4月に開花します。



【フッキソウ】  
葉にツヤがあり、  
白く細長い花を  
咲かせます。



【ナニワズ】  
葉にツヤがなく、  
黄色い花を  
咲かせます。

## ウトナイいきもの図鑑

### 【エゾアカガエル】

体長はオス 4.4cm~5.5cm、メス 5.4cm~7.2cm。

4月~5月頃に、自然観察路で「クァー、クァー」と鳴く声が聞こえることがある。全体が茶褐色で、昆虫などを食べて暮らす。ウトナイ湖では林の中の落ち葉の上をジャンプして移動している姿や、自然観察路が冠水した際には泳いでいる姿が見られることもある。



後ろ姿

## ウトナイ検定

\*ウトナイ湖に関するクイズ

毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。あなたもウトナイ博士になれる？かも。

**Q. 春に渡ってくるオオジシギ。4月下旬には、当センターの上を飛んでいることもあります。オオジシギは、どこから渡ってきたのでしょうか？**



- (あ) 日本の本州
- (い) 東南アジア
- (う) オーストラリア

答えは最後のページです。

## 傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

### アカエリカイツブリ

原因：不明

体重 760g



足の指の両側に弁状の膜が発達している特徴的な形の足

3月15日

8:30頃、市民が歩道に飛べずにいたところを保護し、当センターへ搬入。

明らかな外傷は認めなかった。

体重は、平均より1~1.5割ほど少なかったが、衰弱している様子は見られず、またレントゲンによる検査でも異常は認めなかった。

安静状態にした後、餌（ワカサギ）を与えると自力でしっかり食べることできたため、同日中に海へリリースとなった。

リリース

アカエリカイツブリ（カイツブリ目 カイツブリ科）

全長47cm。雌雄同色。

北海道へは多くが夏鳥として渡来しますが、一部は越冬しています。繁殖期は平地の湖沼や湿原で生息し、非繁殖期では海上、港湾内、大きな河川などで生息します。大きな群れは作らず、潜水して魚類や甲殻類を捕食し、暮らしています。

